

いちのみやの芸術文化



刊本作品を前に 1952年 ©岡谷市／イルフ童画館

- **[特集] 稀代のマルチアーティスト 武井武雄**
- **一宮市芸術祭アルバム**
- **第82回一宮市美術展(報告)**
- **[エッセイ] 私と音楽 ～音楽が紡いでくれた様々な出会い～
声楽・合唱部門 一宮音楽家協会／柴山 友佳**
- **これからの催し**

2024.12

第65号

一宮市芸術文化協会

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

稀代のマルチアーティスト 武井武雄

一宮市三岸節子記念美術館では、二〇二四年十月十二日(土)から十一月二四日(日)まで、芸術家・武井武雄の創作世界の全貌を紹介する「生誕130年武井武雄展」幻想の世界へようこそ」を開催しました。こどもの心に触れる絵の創造を目指した武井武雄は、一般に「童画家」として知られていますが、版画・刊本作品・デザインの領域における仕事・創作玩具など、活躍分野は多岐に渡り、魅力溢れる作品を数多く残しました。

武井武雄は一八九四(明治二七)年、長野県諏訪郡平野村(現在の岡谷市)に生まれました。中学時代には、友人たちと絵画研究会を結成し、美術雑誌や文芸雑誌などを通読す

るなど、美術や文学に触れる日々を過ごしました。

十九歳で単身上京し、のちに三岸節子も師事した洋画家・岡田三郎助が設立した本郷洋画研究所で絵を学びます。その後、東京美術学校(現・東京藝術大学)の西洋画科に入学し、黒田清輝、藤島武二らに師事しました。

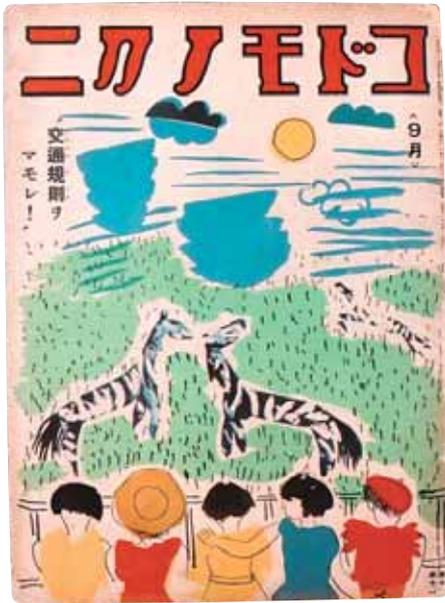
卒業後、絵雑誌『子供之友』などに子ども向けの絵を描き始めます。大正期、印刷技術の発達に伴い、児童向け雑誌は大きく発展し



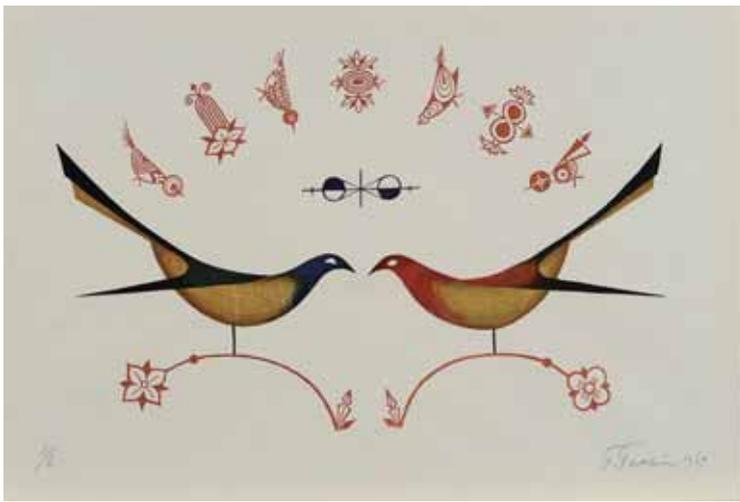
【図1】『コードモノクニ』創刊号1922年1月号
東京社 イルフ童画館所蔵 ©岡谷市／イルフ童画館

ていきました。しかし、武井は当時の子ども向け雑誌に掲載される絵が、童話の添え物として描かれていると感じていました。「こどもには本物の芸術を与えなければならぬ」という思いがあふれ、童画家としての道を歩むことを決意します。武井は絵本雑誌『コードモノクニ』の発行に企画段階から携わり、一九二二(大正一一)年の創刊号【図1】では、表紙絵と題字デザインを手がけます。ユニークなタイトルロゴと絵が一体化した、斬新で芸術性に富んだデザインセンスは、多くの人を驚かせました。

ちなみに、三岸節子も『コードモノクニ』の表紙絵を手がけています【図2】。自身も三人



【図2】『コードモノクニ』15巻11号 1936年9月号
当館所蔵



▲【図3】武井武雄《鳥の連作No.7》1969年 木版画
イルフ童画館所蔵 ©岡谷市／イルフ童画館

の子を育てる母親であった節子。こうした児童雑誌に寄せた絵からは、子どもたちに対する愛情や優しいまなざしが感じられます。次々に児童雑誌が創刊されるなか、武井は当時の印刷技術の再現性に不満をもっていました。そこから、さまざまな版画様式を追い求めはじめます。独自の版画技法まで発明した武井は、《鳥の連作》【図3】に見られるように、抽象的な表現のなかに、武井らしい童画の要素が含まれた、高い芸術性を感じさせ

る作品を生みだしました。

ライフワークとして精力的に取り組んでいたのが、「本造り」でした。武井による刊本作品は様式・絵・文章・装丁・製函・ストーリーなど全て自身が手がけたオリジナルの総合芸術作品で、多種多様な版画技法、伝統工芸、最新の印刷技術などを駆使して作られ、「本の宝石」ともいわれました。

ほかに、子どもの心を知るために始めた郷土玩具の収集は、やがてトランプやかるたなどの玩具への創作へと発展しました。また、戦後に日本童画家協会が創設されてからは、毎年タブロー画（一枚で物語が完結している絵）も描き続けました。武井独特の大胆な構図と水彩とクレヨンを巧みに使用した、緻密な描写が印象的な《星曜日》【図4】も、代表作のひとつです。

「真に子どもを感動させる芸術とは何か？」を考え、飽くなき探求心と創造力で作品制作をしてきた武井武雄。稀代のマルチアーティストが遺した数々の作品たちは、いまなお私たちを魅了し続けています。

（一宮市三岸節子記念美術館学芸員 丹野 汀）



▲【図4】武井武雄《星曜日》1965年 水彩、クレヨン
イルフ童画館所蔵 ©岡谷市／イルフ童画館

■参考文献

- 『子どもの本の世界展 20世紀から21世紀への贈り物』（神奈川近代文学館 二〇〇一）
- 『三岸節子と装丁展—文学者たちとの交流—』（一宮市三岸節子記念美術館 二〇〇六）
- 『描かれた大正モダン・キッズ 婦人之友社「子供之友」原画展』（刈谷市美術館・板橋区立美術館 二〇一六）
- 『イルフ童画館開館20周年記念展 武井武雄クロニクル』（イルフ童画館 二〇一八）
- 別冊太陽新版『武井武雄の本 幻想世界のマルチアーティスト』（平凡社 二〇二四）

9回 芸術祭

(9・10月分)



音楽部

第33回みつゑ会水彩画展



10月10日(木)~13日(日)
一宮スポーツ文化センター
みつゑ会

ファミリーアンサンブルおとのは5周年記念コンサート



9月8日(日)
尾西市民会館
ファミリーアンサンブルおとのは

一宮合唱祭



10月13日(日)
尾西市民会館
一宮合唱協会

グループ創油彩画展



10月22日(火)~11月1日(金)
一宮市役所市民ギャラリー
グループ創

朗読と箏、尺八による‘卓ヶ洞の竜’



9月8日(日)
尾西信金ホール(木曾川文化会館)
脇田会

第51回一宮音楽家協会定期演奏会



10月20日(日)
尾西信金ホール(木曾川文化会館)
一宮音楽家協会

第82回 一宮市美術展

11月14日(木)~17日(日)、一宮スポーツ文化センターで「第82回一宮市美術展」が開催されました。

市内を中心に近隣市町村や県外からも多数作品が寄せられ、審査の結果、入賞となった135作品をはじめ約400作品が展示されました。

期間中は、3,000名を超える方々が来場され、作者の個性と創造性の詰まった作品を熱心に鑑賞されていました。

会期中には審査員によるギャラリートークが行われました。入賞作品などの解説のほか、作者の方との交流もあり、来場された方々に豊かな鑑賞体験をしていただけました。

市長賞を受賞された方は右のとおりです。なお、掲載順は順不同です。(敬称略)

市長賞

- | | | | |
|------|----|----|----|
| 日本画 | 加藤 | 藤澤 | 茂子 |
| 洋画 | 寺堀 | 澤尾 | 侑見 |
| 洋画 | 山菅 | 尾口 | 可奈 |
| 洋画 | 菅尾 | 原 | 一 |
| 彫刻 | 杉 | 関 | 則二 |
| 立体 | 小 | 本 | 春風 |
| 芸 | 梶 | 川 | 雪 |
| デザイン | 村 | 木 | 桂 |
| 書 | 今 | 上 | 光 |
| 書書 | | 井 | 彰 |
| 書 | | | |
| 写真 | | | |



ギャラリートーク(デザイン) 解説 岡崎 美穂さん



ギャラリートーク(工芸) 解説 下田 心一さん

「第79回 一宮市芸術祭」を9月から市内各所で開催しました。各団体の様子をご紹介します。次号も引き続き掲載予定です。

文学部

狂俳大会



10月12日(土)
葉栗公民館
一宮狂俳壇連盟

一宮現代詩発表会



10月27日(日)
一宮スポーツ文化センター
一宮現代詩協会

美朋会展



9月11日(水)～15日(日)
三岸節子記念美術館
美朋会

第34回手つむぎ・染め・織り展



9月18日(水)～22日(日・祝)
玉堂記念木曾川図書館
尾張もめん伝承会

第21回尾西展



10月2日(水)～6日(日)
三岸節子記念美術館
尾西美術連合

一宮美術作家協会展2024



9月21日(土)～29日(日)
三岸節子記念美術館
一宮美術作家協会

土筆の会展



10月3日(木)～6日(日)
一宮スポーツ文化センター
土筆の会

美術部

第23回一宮写真協会選抜写真展



9月7日(土)～16日(月・祝)
博物館
一宮写真協会

第58回麗筆会展



9月20日(金)～22日(日・祝)
一宮スポーツ文化センター
書道研究麗筆会

山ぶどうの会展



10月3日(木)～6日(日)
一宮スポーツ文化センター
山ぶどうの会

第25回能・狂言面作品展



9月7日(土)～8日(日)
三岸節子記念美術館
尾西面打会

第18回 I B K 美術作家展



10月1日(火)～6日(日)
玉堂記念木曾川図書館
I B K 美術作家

第20回あざみの会絵画展



10月3日(木)～6日(日)
一宮スポーツ文化センター
あざみの会

「私と音楽」

音楽が紡いでくれた様々な出会い

声楽・合唱部門

一宮音楽家協会 柴山 友佳

「この曲、テレビの「マーシャ」でやってる曲だよ。」

保育園の頃、私は近所の方にもあった小さなおもちゃのピアノで、テレビで流れる曲を真似して弾いて、家族に聴かせていたのをよく覚えています。

私の家は兼業農家で、家族は音楽とは無縁の世界。それなのに、なぜか私だけ音楽に興味を持ち、弾くことがとにかく楽しくて。それが私と音楽の最初の出会いです。



定期演奏会の様子(2022)

音楽はとても長い歴史がありますが、人間の生活においても、とても身近で欠かせない存在だと思えます。おそらく、音楽を一日耳にしない方はおられないのではないのでしょうか。音楽は、字の如く音を楽しむということで、人の心を動かし、気持ちを高めたり静めたり、また昔の思い出を蘇らせてくれたりもします。

大学時代、音楽療法を勉強していたチエロを弾く同級生と一緒に、毎週木曜日に緩和ケア病棟へ慰問演奏をする機会をいただきました。



第50回記念
一宮音楽家協会定期演奏会
プログラム(2023)

昭和歌謡や童謡唱歌を演奏したり、起きることの出来ない患者さんへは、ベッドサイドで演奏したり。ある患者さんが、「音楽で故郷の青森を思い出して、病気の痛みを忘れられたよ。」とおっしゃいました。その時、音楽は心と体を癒す力があるのだと身をもって実感しました。その経験は、私の音楽に対する考え方や捉え方を大きく変えてくれました。

私が一宮音楽家協会に出会ったのも、ちょうど緩和ケアで演奏していた頃です。緩和ケアの経験を生かして、生まれ育ったこの一宮市を、音楽であふれる街にしたいと常に思いながら現在も活動を続けています。昭和四十七年に一宮音楽同好会として発足し、平成五



第49回定期演奏会の集合写真(2022)

年に現在の一宮音楽家協会となりました。昨年、おかげさまで五十回の記念演奏会を開催することができました。これも音楽を愛してくださる皆様方の応援のおかげです。心から感謝申し上げます。

これまで、そして今も当会を引っ張ってくださっている久野以早夫先生や小島祥子先生をはじめ、諸先輩方が築き上げてくださったことを大切にしながら、新しいことも取り入れて、共に音楽を楽しむ時間を共有できる場を増やし、よりよい一宮市の芸術文化の発展に貢献していきたいと思っています。



「仲良し組」

今井 彰二

県文化協会連合会の催し

西尾張部芸能大会(報告)

10月20日(日)、愛知県文化協会連合会西尾張部芸能大会が、名古屋文理大学文化フォーラム(稲沢市民会館)にて開催されました。本

協会からは、吟道関心流愛知県本部真和支部(吟剣詩舞)の皆様が出演され、特別企画ミニ構成吟を披露しました。



子どもたちによる力強く雄麗な詩吟に、会場からは大きな拍手が起きました。

第49回愛知県文連美術展(報告)

11月19日(火)〜24日(日)、愛知県美術館ギャラリーにて、第49回愛知県文連美術展が開催されました。本協会からの出品作品も会場に展示されました。



愛知県民茶会(報告)

10月13日(日)、蒲郡市民会館を会場に、愛知県民茶会が行われました。愛知県文化協会連合会と蒲郡市文化協会のご尽力により8つの文化協会の皆様が設席をされ、当日は約5,000人の方が来場されました。

『いちのみや文芸』を発売

10月19日(土)「いちのみや文芸2024」を発売しました。随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、狂俳、川柳の7部門あわせて213名の方から寄せられた1,710作品を掲載しています。ぜひ一度、手に取って読んでください。

価格は1冊800円です。ご希望の方は事務局(市教育委員会生涯学習課)までお尋ねください。

2024 いちのみや文芸

随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、川柳、狂俳



一宮市芸術文化協会

文化講演会(報告)

西川ヘレンの人生ドラマ

大家族一支え愛、見守り愛、励まし愛
講師 西川ヘレンさん

10月19日(土)に一宮市民会館で開催し、開場前から大勢の方にお並びいただき盛況ぶりでした。

西川ヘレンさんの幼少期から大家族を切り盛りする現在に至るまでの、まさに「人生ドラマ」をユーモラスな口ぶりでご講演いただきました。会場からは何度も笑いが起き、来場された方からは「あつという間の時間だった」と好評のお声をいただき講演会となりました。



加入団体の 催し

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(85)7074

日時▼1月12日(日)・2月9日(日)

3月9日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼真清短歌会委員により実

作指導します。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼当日直接会場

491-8501 本庁舎生涯学
習課)

『瀟聲會作詩教室』

【問合せ先 一宮漢詩瀟聲會】

☎(78)7953

日時▼1月21日(火)・2月4日(火)

3月4日(火) 午前10時〜

会場▼中央図書館

内容▼漢詩文の作り方の指導を

はじめ、持ち寄った創作

詩の添削の検討を会員間

で行います。(初心者歓迎)

参加料▼年3,000円

申込み▼当日直接会場

『新年短歌大会』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(85)7074

日時▼1月26日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼事前募集した中から互選

により優秀作を表彰しま

す。

参加料▼500円(見学無料)

申込み▼1月8日(水)までにハガ

キにて雑詠一首提出

『令和6年度(公社)中部日 本書道会一宮支部講演会』

【問合せ先 (公社)中部日本書

道会一宮支部】

☎090-4265-6098

日時▼1月26日(日)

午後4時〜5時30分

会場▼一宮商工会議所

演題▼本阿弥光悦の書の魅力

講師▼増田孝さん(愛知東邦大

学客員教授・公益財団法

人永青文庫評議員)

入場料▼無料(一般聴講歓迎します)

申込み▼当日直接会場

●本誌をご覧になり、「ご意見」「感想」などございましたらお気軽に下記事務局までお寄せください。

加入団体の 催し

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(78)5002

日時▼1月11日(土)・2月8日(土)

3月8日(土) 午後1時〜

会場▼葉栗公民館

内容▼各自10句持参、互選によ

り優秀作を記録に残しま

す。(初心者歓迎)

参加料▼無料

『能・狂言面の制作』

【問合せ先 一面会】

☎(71)2716

日時▼1月11日(土)・25日(土)

2月8日(土)・22日(土)

3月8日(土)・22日(土)

午前9時30分〜正午

会場▼アイプラザ一宮第5会議

室

内容▼実地指導(初心者歓迎)

参加料▼月3,000円

(見学は無料)

申込み▼当日直接会場

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(44)7598

日時▼1月26日(日)・2月23日(日)

3月23日(日) 午後1時〜

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼自由吟および課題吟を一

宮川柳社委員が指導しま

す。(初心者歓迎)

参加料▼無料

申込み▼初参加の方は開催日の

3日前までに電話で生

涯学習課☎(85)7074)

【題字】武山翠屋 【連絡先】一宮市芸術文化協会事務局(市教育委員会生涯学習課内)
【編集・発行】一宮市芸術文化協会 〒491-8501 愛知県一宮市本町2丁目5番6号
TEL 0586-85-7074 / FAX 0586-73-9213